

# ノーム通信83

2003-5

〒130 0026 東京都墨田区両国4-30-4-1109

**GNOMES**



三社祭りも終わり、その日だけ真っ白なスニーカーを履いてござっぱりしていたホームレスのおっちゃんもいつもの汚れた服に戻り、浅草も落ちついてきました。仕事もあいかわらず冷え切って落ちついていますが考えてもしょうがないので出来ることに集中しています。

色々な波があります。その度にくるくる避けて回っていると自分がどこに向かって進んでいたのかさえわからなくなります。はじめから高性能の船で出発したわけではありませんから今更多少具合が悪かろうと、あっちこっち修理をしながらゆっくりしっかり進んでいけばいいだけです。そうやってこ

つこつぼろ船をあっちこっちなおしたり、流されてまた立て直したり嵐のあとでまた復活しなければなどとやっていると、進んでいる方向やルートが間違っていないのかというよりも、果たしてそんなものがあったのかなどと考えるようにもなります。頼るべき羅針盤はどこを向いているのか、力を尽くして進むためには自分が納得するものが必要なのです。自分の生き方に自分の責任で動いている以上なにがしかの力の元となるものがが必要です。

若い頃から大会社を目指して安定した職を求めるのも生き方だけれども、頼りない難破船みたいな職場で苦勞するのも良いと思っています。その年代に、何とかしようとかあがいた量が男も女もいい顔にさせてくれるはずです。多分歳をとってからいろいろな差が出てくるような気がします。始めから安定した社会の中だけをたどり何の問題もなく子供達も成長して親元から離れていった後、職場でも次の世代が台頭してきた頃、「趣味を生かして」とか「それまで出来なかった習い事を」などとゆとりのある人生を過ごす頃。それは本当にいいのだろうかと思うのです。それは単に残った命の量に戸惑ってひまつぶしに浪費しているように見えてならないのです。もったいないという気持ちがあります。その頃ぼろ船人生を歩んだ人はまだまだぼろ船の修理点検建て直しに追われて波をかぶったりひっくり返りそうになったりしながら「俺はどこへ向かっているんだ、俺の羅針盤はなんなんだ。ほんとうにこの方向でいいのか。」とつぶやきつつ自分と仲間達の持っている全部の能力を使って生きているように思います。大変だがなんだか面白い。ノームはぼろ船ながら沢山の人間達といつもはっきりしない羅針盤を見つめてどうにか進んでいます。一日一日が冒険の毎日です。そう思っていたらこのSARS騒ぎでお客様がなくなったネパールの旅行ガイドから「チベットへ行くお客様も来そうもないから暇で、夏は遊びに行きます。」とのんきなメールが入った。さあ、遊ぶ計画を立てねばならない。今月もノームは忙しいのです。

エコグリーンテックは5月21日から23日まで。東京ビックサイトでおこないます。私は23日の3時から話す予定です。問い合わせなどは事務局へ03-3267-4886です。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com